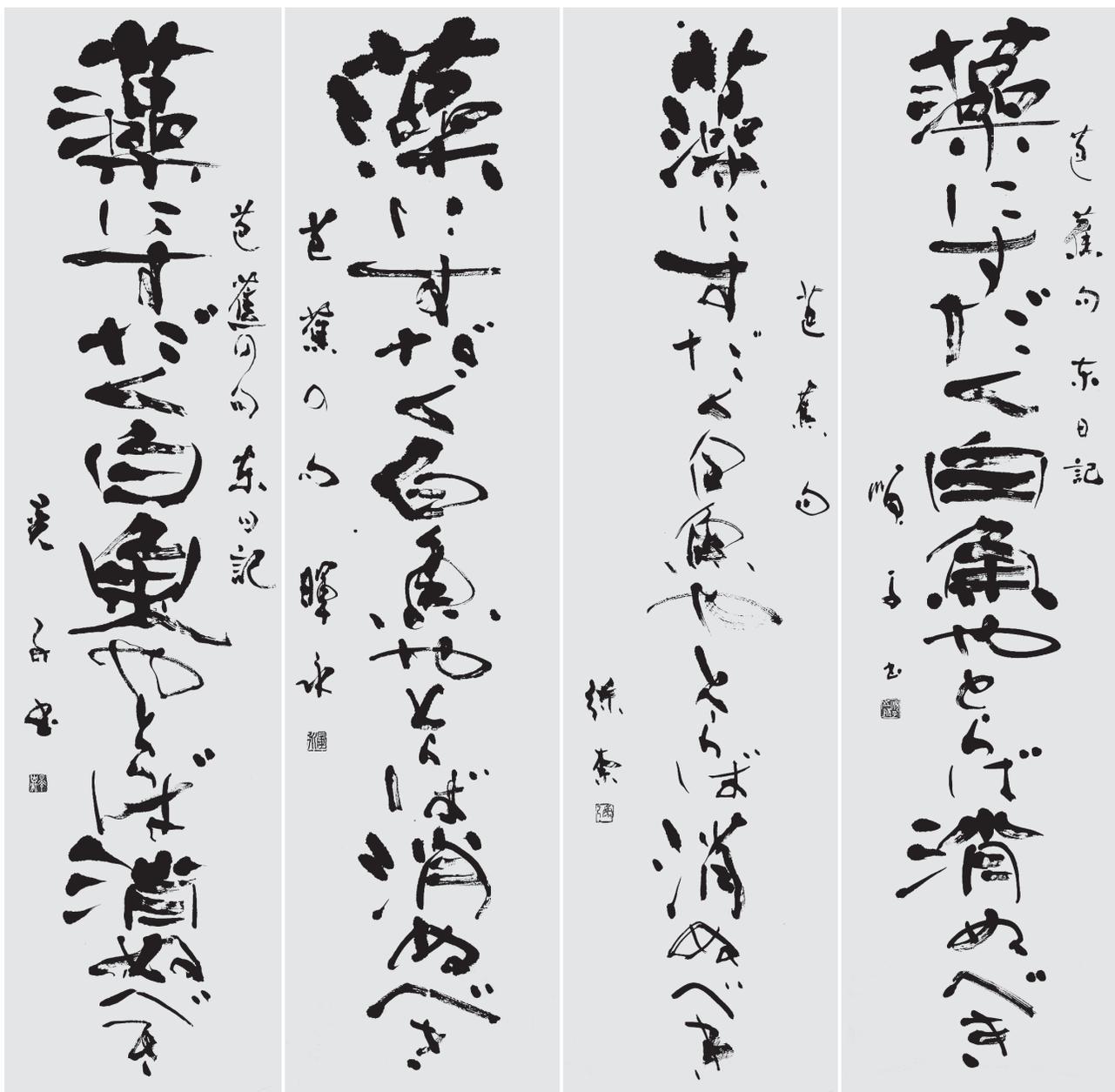


江幡太穠先生選評



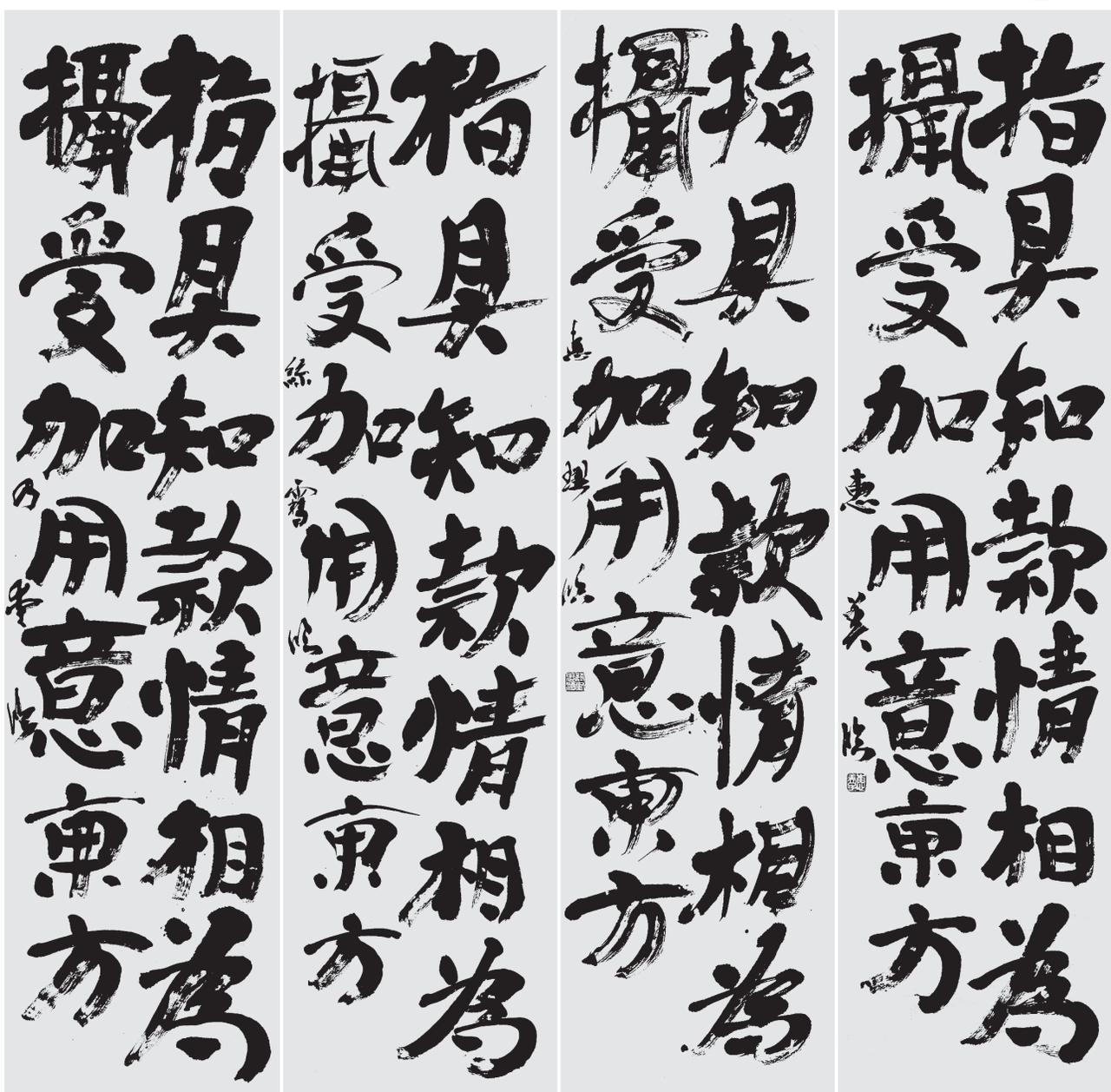
葉丸順子 推選
 握り柔らかく力む事なく太細、軽量が実に素晴らしい。落筆も高く、このリズムの良さが動きのある明るい線を生じた。落款の位置も丁度いいでしょう。

水野弥奈 推選
 細身の長鋒でしょうか。やはりリズム良く潤濁が良く特に「白魚や」の濁筆が実際眼を引きました。清々しく白が美しくなかなかこうは書けません。

桑子暉永 推選
 横への広がりを意識し、大小、潤濁も良く配置も丁度良く収まっています。一つ気になるのは転折部の角度筆遣いが同じな事です。太細だけでも。

富永晃子 推選
 元気一杯ですね！仮名の動き、強さが作品を引き立てています。最後の「べき」も他同様もう少し太くしたかったですね。

藤田壽樹先生選評



徳安 恵美子 推選
 じっくりと運筆し良く沈潜した線。澄明で悠揚とした書きぶりが目を惹く。王道を書く真摯な臨書態度に好感。今後の発展が益々楽しみです。

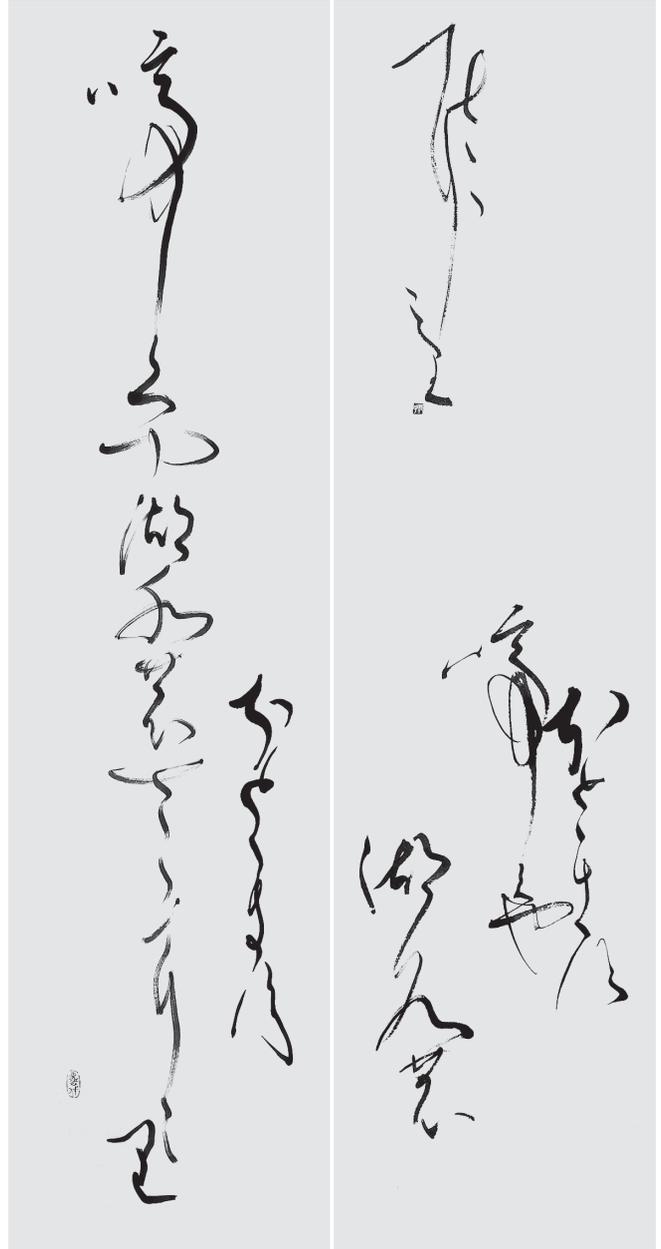
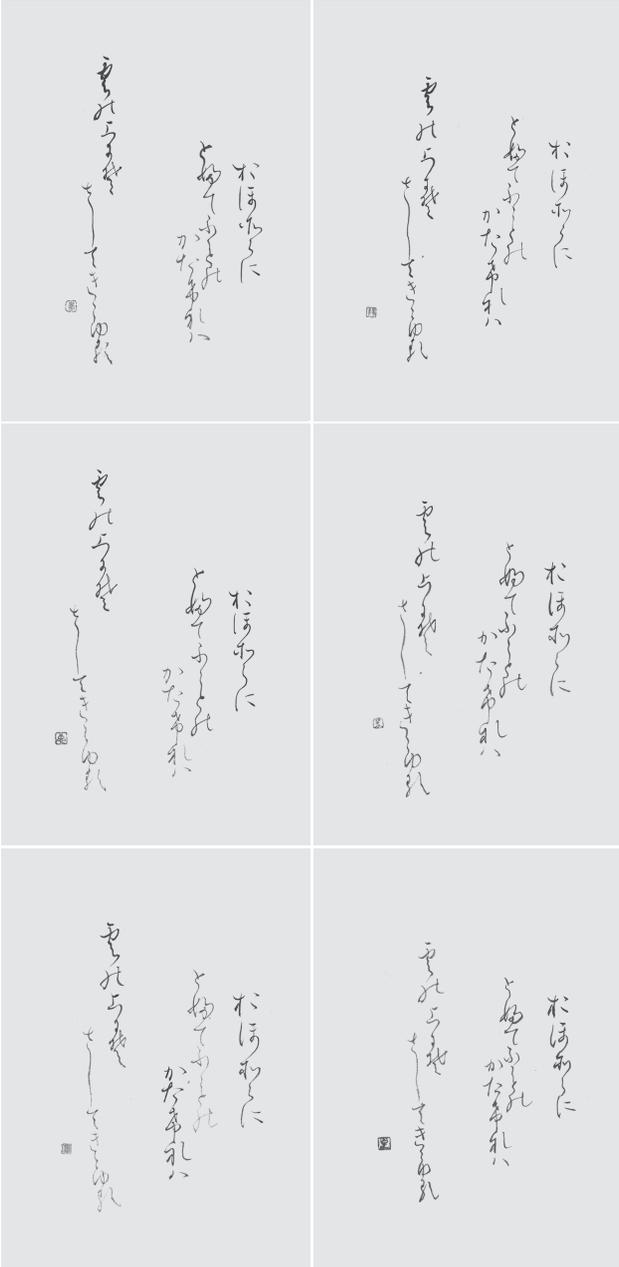
浅野 恵理 推選
 太細の変化と軽妙なりズムに富み、紙面を縦横に躍動した作品。自己主張を持った個性的な臨書で心惹かれる。縦画の左への傾きが多いのは気になるところ。

星野 裕子 推選
 運腕大きく大胆。逞しい筆致の牙え渡った線が素晴らしい。筆脈の自然な流れ、緊張感の持続も良い。二行目が一行目に押されややバランスを欠き残念。

綿貫 乃愛 推選
 太くおおらかに紙面いっぱい書いて堂々としている。墨量豊かで自然な筆の開きは素朴で簡素な中に温かみのある表情を示して魅力に溢れている。

佐々木優子先生選評

笠原博子先生選評



時岡寿代 八段
筆先をきかせ筆圧をかけてリズム良く書かれています。原帖のリズムもしっかりととらえている見事な作品です。渴筆部が無いのが惜しい。

伊藤琇華 七段
優しい大らかなリズムで書かれています。更に筆圧を工夫して書かれると練質に変化が生まれ作品の魅力が増すと思います。

田窪優子 準七
ゆつくりと丁寧に書かれています。墨の潤濁も良く考えられています。ふくやかな弾力ある練質で伊勢集の雰囲気良く習得された作品です。

赤坂陽子 師範
ゆつたりとした呼吸と確かな練質で運筆され伊勢集のふくやかな線の動きを良く習得されています。墨色が冴えて品格のある作品です。

井出翠風 師範
しなやかに明るい線でリズム良く書かれた作品です。更に潤濁の変化が加わると一段と冴えた作品になると思います。

田中克子 準師
原帖を丁寧に習われています。筆圧に変化をつけ、弾力性ある練質を更に追求されて伊勢集の格調高い線の変化を学んで下さい。

時岡寿代 推選
小気味良い呼吸のリズムから始まる。次に上部より解き放たれたように、一気に下りてくる一行は暢びやかな流れ。最後の墨入れの「里」で全体を受け、安定した。

三宅春華 推選
細太に変化した筆線を紡ぎながら、筆は軽やかにリズムミカルに舞う。時にはゆつくり沈潜し、少し濃いめの墨量と相俟って、余白も効果的。心踊る音楽を奏でている。

葛西玄涛先生選評



石井美保 師範
文字内の空間をよく観察し、丁寧に表現されています。全ての線が凛々しく、紙を切り裂くように鋭いので、緊張感が強い正統派の臨書となった。

島田敬子 七段
起筆の角度と強さが、とても原本に近い。始めが正しく生まれてくる線も正しくなることを証明しています。強い直線であっても情趣がある。

柴田櫻花 師範
二文字の大小の変化を大きく付けていてもどちらも同様の強い主張をもっています。大きな動きから筆を操り、その動きを線に吹き込んでいる。

伊藤妙子 七段
曲線と直線が、どちらも活発に動いていて、木簡の楽しさを演じています。その二つの線を跳ねる線で結んで、一段と活力を増加させています。

栗林和江 師範
横画の軽快と重厚な他の線との比率が半々程で、安定した作品となった。横画の角度を原本と同様の右上がりにして、二文字の間に協調が生じた。

新居浩子 六段
基本に忠実な字形と安定した直線の臨書作品となった。鋭いキレを持った線でも重厚な線となっているのは、強い筆圧を一定に保っているからだ。

田添文字 準師
丁寧な遅めの線と渴筆を生む速い線が、半々にあって、良い安定を生んだ。その渴筆が伸びやかで、清澄となっているので、作品全体を快晴にした。

光夫 五段
字形の特徴を拡大してうまく表現しています。太線と細線の変化と紙面から速く離れる鋭い線に魅力を感じる。この動きで大作に挑んでほしい。

前川春琴 準八
転折の横画から縦画に移動する速度、筆圧、筆の角度が適切です。これを力まずに軽々と清しく書かれているのが、素晴らしいと感じます。

鈴木ゆかり 準五
細い横画とその他のための線が違和感なく文字を組み立てています。乱れることのない直線を引くための腕の動きが滑らかなので、躊躇が見られない。

平野智泉 八段
柔らかく弾む線がたくさんあります。楽しく踊って見えるほどの動きをうまく紙面に収めて、余白の白も味方にして、完成度の高い美しい作品にした。

野澤夢支 三段
強い直線の渴筆と細く揺れる線と渴筆が対照となり、主張が強い作品です。形の変化で魅力を作らずに線の変化で見せていて、書の本質を貫いた。